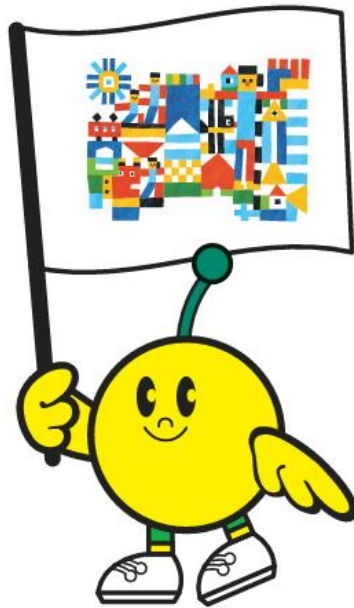
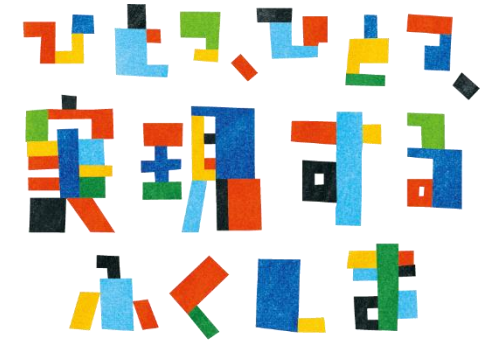


避難地域の復興・再生に向けた取組



福島県
復興シンボルキャラクター
キビタン

2022年5月29日
福島県





◎ 生活環境整備



ふたば医療センター附属医院



商業・交流・宿泊温浴交流ゾーン

◎ 特定復興再生拠点区域解除等の目標

	解除の目標	準備宿泊開始・開始目標
葛尾村	令和4年6月12日(予定)	令和3年11月30日
大熊町	令和4年6月下旬～7月上旬	令和3年12月3日
双葉町	令和4年6月以降	令和4年1月20日
浪江町	令和5年3月	令和4年秋頃
富岡町	令和5年春頃	令和4年4月11日
飯館村	令和5年春頃	令和4年秋頃

(R4.5現在)

◎ 避難地域12市町村の居住状況

解除時期	区分	市町村	居住率
—	—	広野町	90.1%
平成26年	全域解除	田村市(都路地区)	84.5%
平成27年	全域解除	檜葉町	62.5%
平成28年	一部解除	葛尾村	34.4%
	全域解除	川内村	82.4%
	一部解除	南相馬市(小高区等)	58.8%
平成29年	全域解除	川俣町(山木屋地区)	49.0%
	一部解除	浪江町	11.5%
	一部解除	飯館村	29.9%
	一部解除	富岡町	15.7%
平成31年	一部解除	大熊町	3.6%
令和2年	一部解除	双葉町	—

(R4.3現在)

◎ 避難者の見守り・生活再建



コミュニティ交流員の配置

◎ 被災者の心のケア



復興公営住宅における被災者の心のケア研修会

- ふるさとに安心して帰還できる医療・介護、住宅や買い物環境の整備等を推進。
- 葛尾村の特定復興再生拠点区域において、来月、帰還困難区域としては初めて、居住に向けた避難指示解除を予定。さらに、大熊町及び双葉町においては、住民説明会などの取組が進められ、富岡町では準備宿泊が開始されるなど、復興に向けた歩みは着実に前進。
- 一方、避難指示の解除の時期の違いなどにより地域によって復興のステージは大きく異なっており、復興の進捗に応じたきめ細かな対応が必要。
- さらに、避難生活の長期化等に伴い、避難者を取り巻く課題は個別化・複雑化しているため、日常的な見守り活動や、避難者一人一人への心のケア等、今後も丁寧な対応が必要。

◎ イノベ構想の推進と新産業の創出



福島ロボットテストフィールド



廃炉関連産業マッチング会



企業立地セミナー

◎ 農林水産業の再生



タマネギの産地化（富岡町）



水産業の再生

◎ 風評払拭・風化防止対策

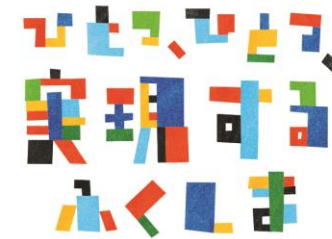


ブルーツーリズムの推進

◎ 移住・定住の促進



◎ 新総合計画等



- 福島イノベーション・コースト構想の推進による新たな産業の創出や地元企業の参入を促進し、避難地域への産業集積が必要。
- 農林水産業の再生もいまだ途上。営農再開を加速化させるため、高付加価値産地構想の実現に向けた取組を進めるとともに、水産業については、流通加工・消費対策や施設等基盤の整備、担い手育成への支援など、生産体制の強化が必要。
- 海の魅力を発信するブルーツーリズムの推進などにより国内外からの観光誘客の促進に取り組んでいく必要。
- 地域の担い手・人手が不足していることから、帰還政策を基軸としながら、新たな活力を全国から呼び込み復興を加速化させるための移住・定住の促進が必要。
- 新たに策定した県総合計画等の取組を着実に実行。